

平成20年度 カーブ対抗 里山デジカメ選手権

もり
身近な森林の再発見!! 入選作品集



林野庁長官賞作品一部



最終審査風景



琵琶湖博物館長賞作品一部



審査員総評

主催 近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター

共催 滋賀県立琵琶湖博物館 / (財) 水と緑の惑星保全機構・里地ネットワーク

協賛 (株)ニコン/エプソン販売 (株)

後援 朝日新聞大阪本社 / (財) 森林文化協会 / NHK 大阪放送局

はじめに



里山と呼ばれる農村や街の周辺にある身近な森林は、近年における林業の低迷やエネルギーの石油依存などを背景として、手入れがなされずに荒廃が進んでいます。

林野庁近畿中国森林管理局の「箕面森林環境保全ふれあいセンター」では、このような里山などの保全・再生を重要な活動の一つとしています。

平成 19 年度から実施している「グループ対抗里山デジカメ選手権」は、今日急速に普及したデジタルカメラを用いて、里山などの動植物の姿や保全、再生活動の一瞬を切り撮った 3 枚の組写真を募集し、優れた作品を顕彰することを通じて、里山の保全・再生に貢献しようとするものです。

本年度は、「身近な森林（もり）の再発見」をテーマとして、募集したところ、東は神奈川県から南は沖縄県まで 21 府県から、学校、森林ボランティア団体、企業、家族など多彩なグループによる 157 組の作品を寄せていただきました。

これらの作品については、第一次審査により 30 組が選定され、その後最終審査が行われました。

最終審査会は、11 月 2 日（日）に、滋賀県立琵琶湖博物館において、写真家の今森光彦氏と農学博士の只木良也氏及びフリーアナウンサーの青山佳世氏を審査員にお迎えし、公開による作品の展示とグループ代表による発表を行っていただきました。その結果、最優秀賞（林野庁長官賞）1 組、琵琶湖博物館長賞 1 組、優秀賞（近畿中国森林管理局長賞）7 組が決定しました。

本誌に掲載する作品は、最終審査会で選ばれた 9 組と第一次審査で選ばれた 21 組です。

ここに、本年度のグループ対抗里山デジカメ選手権の開催に当たり、御支援、御協力を頂きました関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成 21 年 3 月

近畿中国森林管理局長 朝比奈 清

(最終審査) 審査員の総評

○ 今森光彦氏 (写真家)



今回も楽しく審査をさせて頂きました。去年に比べますと数倍レベルが高くなって大変楽しかったです。

一次審査で、今日見て頂いた30組を選ぶのに難儀しました。最近デジカメは性能が良くなり、良く写るんです。綺麗に写るんです。その中で下手な写真がかえって目立つんです。思わず足を止めて「どのようにしたらこんな写真が撮れるんだろう」と見えてくる。今日並べている作品はみんな素晴らしい作品ばかりなのですが、そんなふうな時代がやって参りまして不思議なもんです。

今日そんな中で荒選びをさせて頂いた中で接戦のすえ見事受賞者が決まった訳ですけども、僕自身は、今回里山ってタイトルが付いてますけど、里山って日本中何処でも似ているんです。活動されてても大体同じ活動をされています。大体木を伐って、みんなで楽しんでいる、という構図が似ていると思います。

そして木も良く似てるでしょう。東北から九州まで、もちろん植生は違いますが、大体なんか良く似てるんです。この何処でも同じ環境であると言うのがすごく大事で、里山の日本のいいところかなという気がするんです。

だからこれに甲乙を付けるのは非常に難しいですね。それぞれ皆さん思いがある訳で、今日発表して頂いた方みんな伝わって来ます。それぞれ「木を愛している」とか、「土地を愛している」とか、「もっと自然が増えたらいいなと思いました」とか、ひしひしと伝わって来て、私も共感して、本当にその通りだと思います。

その中でこういうコンテストの場合、何が左右したかということだけ申し上げますと、私自身が考えてるのは、たぶん「夢」の部分じゃないですかね。自分がその「里山」という自然に対する夢を描いている。その描き方が凄くはっきりしている。人に提言出来るものである。そういうものが、これからの町おこしであるとか、個性の無い「里山」ですから、日本中どこでも同じような環境にある「里山」の中で際だって突出してくるヒントを得てるんじゃないかなという気がします。

私の場合はそういう「夢」のある見方をしてくれているというか、そういう所に点数が高くなったという感じがしています。

ともかく今日来て頂いている方々は全部受賞者じゃないかという位の方々なんですけれども、たくさん応募して頂いてありがとうございました。

また、遠くから発表のために来て頂いて本当に感謝しております。どうもありがとうございました。

一次審査総評

今回は去年に比べて応募がたくさんあり、すごく質が高くて、バリエーションに富んでいました。一次審査を担当させていただいて、嬉しくて、楽しく審査させていただきました。

学校グループ、森林ボランティアグループ、一般グループ共それぞれ個性があり、楽しく審査させていただきました。

学校グループの内小中学生のグループは、技術的にはもう一歩という作品が多かったのですが、生き物を見る視点、環境を見る視点など、もの見方が伝わってきました。もう少し写真の技術がマスターできれば、すごく良い写真になると思います。カメラも良くなってきおり、すぐ技術的に習得できますので、たいへん楽しみです。森林ボランティアグループと一般グループですが、誠意をもって自然の事を愛しておられ、心から取り組んでおられ、熱気が伝わる写真が多かったです。最終審査でのスピーチが楽しみです。

○ 只木良也氏（農学博士）



本当に接戦でございました。実に皆さん上手いんですね。プレゼンテーションも熱がこもったのもありました。

写真というのはものを訴えなければなりません。それともう一つは映像が綺麗でないといけません。私も50年以上写真撮っているのですが、これぞという写真は10枚あるでしょうか。写真は本当に難しいんです。

今日は本当の専門家の今森さんがおいでになるのに、私も偉そうなことを言いながら選ばせて頂きました。その中では何を訴えているのか、何を物語っておるのか、そして映像が上手く表現できているか、これをポイントに選びました。

目出度く入賞したものの中で一つ他のものとは毛色の変った作品にお目にかかりました。これにちょっと感銘致しました。これは森林・林業部門の4番の「きになる木！」という作品でございます。これは、日本の松林に松枯れが蔓延して大変な状況をご存じと思いますが、それに加えて現在は、ナラの木等がどんどん枯れる、カシノナガクイムシという昆虫による害が出ています。これを捉えて、実に上手い表現をされております。まず立っている木の葉っぱの枯れている写真が1枚目。その幹に穴が開いている、そこから白い粉がいっぱい吹き出している、これが2枚目。3枚目はその幹の穴を拡大して、こんな穴だよ、と。私はこれを実は林野庁長官賞にしたいと言ったんですが、ちょっと学術的過ぎたというところかもしれませんが、私が注目した作品でございました。

それから、皆さん方おそらく写真がお好きだと思うんです。そして里山へ常においでになる。その時にですね、こういうことを一つ心がけてみられると面白いんです。同じアングルで、定点観測をすると言うことで行く度に同じ角度で写す。これが5年経ち、10年経つと面白いんです。1年でもですね、四季の写真というと春は花、秋は紅葉というのを四季の写真だと思いいになるかもしれませんが、ある一つの定点を構えて、それで春夏秋冬同じように撮ってみてください。これまた面白い写真が上手くいくと出来ます。これを定点観測と申しまして科学的にもいろいろ後々ものを言うことになりますので、山に行つて単に景色が良いと言って写すのではなくて、いつも行く山は、私はここに来た時は必ずこっちを向いて写すというポイントの一つ二つ持ってみてください。そうすると面白いです。

○ 青山佳世氏（フリーアナウンサー）



皆さん、素敵な写真と発表ありがとうございました。

この里山デジカメ選手権というのは、作品、メッセージ、発表という三本立ての大変高度なことを求めているのですが、今回はどれも皆さんの思いが伝わってくる素晴らしいものばかりでどれを選んでいいか困ってしまいました。ほんとに悩み抜いた挙げ句に心を鬼にして選んだということだけお分かり下さいませ。

やっぱり里山がテーマになっているので自然とか生き物と出来るだけ人とのふれあいのようなものが作品とメッセージの中に出てくるものという視点で私は選んでいきました。そういう意味で、林野庁長官賞も琵琶湖博物館長賞も素晴らしい作品が選ばれたという気がしています。

これからも皆さん達は自然や森に対する活動をなさっていくと思うんですけど、観察をしたり山の手入れをしている最中は、どうしても作業をすることが主眼になって「いい」写真を撮るのは二の次になってしまうことが往々にしてあると思います。でもこうしたメッセージ性のある記録の写真を残しておく、次に自分たちの活動を広く伝えていく時にきっといいアピールになると思います。

これから山の中を歩いたり、森林で作業をしたり、いろんなことをする時に、是非、いい瞬間を撮れるよう役割分担みたいなことをして、次にこういった選手権がある時に向けて作業を行いながら作品を撮り続けて頂きたいと思います。本当におめでとうございました。

平成20年度グループ対抗里山デジカメ選手権入選作品一覧表

	タイトル	グループ名	部門	メンバー氏名	所在地
林野庁長官賞	絵本の世界 森林の中	想像力働き隊	一般	加藤 啓子 加藤 優佑 加藤 俊輝	神奈川県 横浜市
琵琶湖博物館長賞	山里のくらし	友 達	一般	山本 安子 池田 ひろこ 大川 真理子	大阪府 柏原市
近畿中国 森林管理局長賞	3匹のみより	虫好きブラザーズ	学校	檜村 健穂 檜村 朗穂 檜村 郁穂	大阪府 高槻市
	木もれ日に輝く森	大月市立鳥沢小学校 (M & A ミオ&アヤリ)		古家 綾莉 佐藤 滯	山梨県 大月市
	小さな宝物	広島県立庄原格致高等学校 写真部 A		石田 愛美 横山 千歳	広島県 庄原市
	きになる木！	NPO法人 ヒマラヤン・グリーン・クラブ	森林・ 林業 活動	御池 吉道 磯部 春美 平塚 清武	滋賀県 大津市
	大きくなーれ！ ～春のアカマツ植栽～	NPO 法人 日本森林ボランティア協会		筈 智子 毛穴 友治 大西 由兼	大阪府 大阪市
	森が笑う日	NPO法人 山ぼうしの自然学校		佐藤 明希 瑞慶覧 明子 北川 絵里	長野県 上田市
	森から里へ	滋賀県立大学 生き物愛好会		一般	吉川 剛明 中西 康介

◎ 林野庁長官賞【一般部門】



「絵本の世界 森林の中」 想像力働き隊（神奈川県横浜市）

加 藤 啓 子
加 藤 優 佑
加 藤 俊 輝

<メッセージ>

子供が三歳になる頃から、年二度は山に登ります。澄んだ空気、息があがってきても腕はひんやりしている感触に大自然を感じます。

ぐんぐん伸びている根っこは、何かを求めているかの様な生命力を感じます。子供たちの大好きな「ねっこぼっこ」という絵本にねっこの下に住む妖精がいるのですが、家族全員「いるかもね…」と、あまりの迫力に眩いてしまいました。

大きなきのこを発見したときは「(白雪姫の)七人の小人の家ってこんなおうちだったかな？」と小人の大きさを想像し乍ら観察していました。途中で急に天気が崩れ始め、立ち往生になり、雷・強風・大雨になってしまいました。自然に飲み込まれそうになり、心細い中、静かになるのを待ちました。小雨になり、先程まで道が川になっていましたが、町で見かける水たまりは一つもなく、「お水はどこへ行ったの？」と不思議なほどでした。「森のねっこぼっこが、草が、土が、大量の雨水を吸いとってくれたんだね。」と下山しました。

しばらくすると、光が射し込み、きれいな虹が出ました。山登りで自然と体あたりした疲れが一気に吹き飛びました。まるで「オズの魔法つかいみたいだね。」と最後まで森林はわたくし達に”想像力”を働かせてくれました。

人間は様々な環境の中で育っていきますが、自然を五感で感じる事の大切さは子供の原風景として残り、心の豊かさや、強さになってゆくのだと思いました。

撮影場所：東京都御岳山 みたけやま

「絵本の世界」というタイトルの付け方がすごく素敵だと思いました。僕も小さい頃森というのは妖精が棲んでいて、未知なものがすごく体験できるという絵本の世界を凄く感じて、それで森に親しくなったのを覚えています。入口として具体的なものよりも神秘的なものを感じて森の中に入ってもらう、たぶんこの写真からひしひしと伝わってくるんですけど、根っこが出ていて変なものに見えたり、小っちゃなキノコに目をやったり、虹を見つけたり、こういう写真が森に行かれた時の楽しさというか緊張感というかそういうものが凄く伝わって来て良かったと思いました。

(今森光彦氏)

カメラ機種：SONY CYBER SHOT W50
画素数：600万画素

◎ 琵琶湖博物館賞【一般部門】



「山里の暮らし」

友 達 （大阪府柏原市）

山 本 安 子

池 田 ひ ろ こ

大 川 真 理 子

<メッセージ>

- ① 長野県大鹿村の牛飼の生産者に会いに行ってきました。82才のおばあさんがまだまだ牛のエサやり、掃除などされて元気で働いておられました。その笑顔に私達も元気をいただきました。
- ② 取りこわれかけた木造中学校を勇志、卒業生で移築して「延齢草」という集まりの場を作られました。そこでヤギの乳からチーズを作り販売しています。きれいに手入れされたヤギとても人なつくて 幸せそうなのでパチリと撮りました。
- ③ 冬の準備にマキがきれいに積まれていました。その模様の美しさ、それぞれの木からメッセージを受けとめて撮りました。

大切な山や森の自然を生かして生活されている方々がおられ、私達都会の生活も成り立っていると思います。

そのままになっている人工林を国産材として活用し、光が入る森として生き返らせてほしいですね。広葉樹が育ち実のなる木が増えれば動物達も里山に降りてこなくなると思います。昔話の日本の森になる様に伝えていきたいと熊森協会の会員になりました。

撮影場所：長野県大鹿村

写真そのものが凄く魅力があると思いました。3点の写真それぞれがメッセージを放っている凄くいい作品だと思いました。山羊の表情なんかも凄くいいし、おばあちゃんもなかなかいいですね、いい顔してますね。向こうに少年がいますけど、作業場でしょかね、向こうの環境もよく分かりますね。

一番最後は、薪に使う木ですかね。木の木目のところにピントをあわせて撮ってますね。こういうバリエーションのある撮り方が凄くいいと思いました。

(金本光彦氏)

カメラ機種：CANON IXY 画素数：800万画素

◎ 近畿中国森林管理局長賞【学校部門】



「3匹のみのり」

虫好きブラザーズ（大阪府高槻市）

樫村 健 穂
樫村 朗 穂
樫村 郁 穂

<メッセージ>

ぼくたちは、大阪府茨木市の山の中で自然とふれ合いながら写真をとりました。大阪といえばビルがいっぱい建っていて、里山とは縁遠いような感じがしますが、少し街を離れれば段々畑が広がって動物の王国のような所がまだまだあるのです。

春にはたくさんのお花がさき、夏には街中にはいないようなセミが鳴き、夜にはホタルが飛びかい、そして秋には色付いたトンボやバッタがそこらじゅうで生活している、そんな所で虫とりなどをして遊ぶのは、もうとにかく楽しい事です。

なのにクーラーのきいた部屋でゲームばかりして遊んでいる人がとてもかわいそうに見えます。いろいろな人が里山とふれ合えば今多い「虫ざらい」の人が減って、人と動物、虫とだっぴふれ合えるはずなんです。なのでぼくたち兄弟は虫とりなどをして里山と遊んできました。なので今ではとても虫好きです。

自分が立っているその周りにはとにかく自然が広がっていて何日もそこにいたくなるような所が里山にはたくさんあります。虫とりの探して探してやっと見つけた達成感などがすごく楽しいと思います。川で遊んで魚を見つけたり、流れのある所で遊んだりして絶対プールよりおもしろいはずなんです。

一回ぐらいは遊園地などに行かず里山に行ってみてください。絶対にそこには、街中とはちがう楽しい所がたくさんあるはずなんです。

撮影場所：大阪府茨木市見山

これを撮った人はたぶん虫、昆虫が大好きなんでしょうね。昆虫への愛情がひしひしと伝わって来ますね。イナゴとショウリョウバッタが写ってますね。このショウリョウバッタが、稲の上にとまっていますけど、まさにこんなところに棲んでるんですよ。顔の前に近づけた少年の顔が写ってますけど、なんか凄くほのぼのとした感じが伝わってきますね。昆虫は小さいのでなかなか撮影が難しいんですけど、ピン트가凄く良く合っていて写真として凄くいい作品だと思いました。

(今森光彦氏)

カメラ機種：NICON D60 画素数：1160万画素

◎ 近畿中国森林管理局長賞【学校部門】



「木もれ日に 輝く森」 大月市立鳥沢小学校 M & A ミオ アトアリ (山梨県大月市) 古 家 綾 莉 佐 藤 澤

<メッセージ>

私達の学校は全校児童209名、創立135年の学校です。今から4年ほど前に学校から約5分はなれた場所に学校林がつけられました。今回は「学校林」をテーマに三枚の写真を撮りました。

一枚目の写真は、森林から出る木もれ日を撮る友達をさつえいしました。きれいに輝く日の光とデジタルカメラに写る風景が森の雰囲気が出ていると思います。

二枚目の写真は学校林の花にとまる蝶を撮影しました。普段はモンシロチョウ、モンキチョウ等がよく飛ぶのを見かけますが、足元にとまっている蝶を見るのは初めてでした。色がきれいで学校林にもこんな命があるんだなあと思いました。

最後の一枚は学校林に立つ木と巣箱です。巣箱は今の五年生が三年生のときに作った物です。残念な事に鳥はいませんでした。太陽の光に反射する木がとてもきれいだと思います。

今回の写真を撮る機会を通じて、学校林の小さな命や自然を知ることが出来て良かったと思います。

撮影場所：鳥沢小学校 学校林

森をみんなで管理している状況ですね。デジカメで林を見上げているところとか、小鳥の巣箱越しに木を見上げるように撮っていたり、アサギマダラがオケラに吸蜜に来ているシーンですね。それぞれにアングルがなかなかいいですよ。ワイドレンズで林を撮ったり、手元に写真機を持っている人越しに撮ったりですね。あるいは巣箱越しに撮ったり。なかなか考えて撮ってる写真だと思いました。それが目立ちました。

(今森光彦氏)

カメラ機種：

- ①、③PANASONIC DMC-TZ3 画素数：720万画素(1M)
- ② NICON D40 画素数：6.1メガピクセル(3M)

◎ 近畿中国森林管理局長賞【学校部門】



カメラ機種：①NICON 80D ②、③ CANON 30D 画素数：1020万画素

「小さな宝物」 広島県立庄原格致高等学校写真部A (広島県庄原市)

石田 愛美
横山 千歳

<メッセージ>

私達は、今回蓮田に注目してそこに隠れている自然・里山としての姿を写真に収めようと、何度も色々な蓮田に出向いてきました。そこでは同じ目線になり、見方を少し変えるだけで色々な蓮田の姿を見出す事ができました。例えば、花が咲くと綺麗な白い花とそこに集まる蜂や蝶を、花が枯れると花びらの散った姿やそこへ成っている実なども目にする事ができます。そのたびに違った美しさや小さな可愛らしい所をファインダー越しに撮る事ができました。

今回の三枚の写真はそこで見つけた場面の一部で、三匹の昆虫に焦点を絞って組みました。

今、里山が人間の手によってどんどん削られ、人間の都合に合わせて姿を変えられていっています。また進む過疎化のために手入れが行き届かず、荒れていっている場所もあります。しかし、私達の住んでいる所のように少し歩けば田んぼが広がっていたり、出向いていけば植物や生き物たちが生きている里山を見る事ができる場所も確かに存在しています。この写真のように蓮田という一つの場所にもたくさんの小さな里山が隠れていて、こんな小さな所にも生命の営みがあり、尊い命があるのだと教えてくれました。その小さな事が何よりも大切だと気づき、やがて、もっとたくさんの里山が広がっていく事に繋がればいかなと写真を通して思いました。

撮影場所：広島県三次市西河内

今回昆虫の写真が割と多かったですけど、この写真はとりわけ、上手いと思いました。ワイドレンズで背景というか、雲なんかを入れて撮ってる。イナゴが写って凄く身体が大きく見えるような撮り方をしていたり、あとは水草ですね。それに花蜂が飛び上がる瞬間をシャープに撮っていたり、あるいはトンボが交尾しているところを後ろから狙ったり、なかなかテクニックとして凄い写真ですよ。組写真としてもそれぞれの写真に変化があって目立った作品で良かったです。

(今森光彦氏)

◎ 近畿中国森林管理局長賞【森林・林業活動部門】



「きになる木!」

NPO 法人ヒマラヤン・グリーン・クラブ

(滋賀県大津市)

御池吉道

磯部春美

平塚清武

<メッセージ>

滋賀県近江八幡市伊崎半島の先端に在るコナラの「きになる木」です。

ひとつの株で地上30～50cmのところでは3本立ちしており、直径がそれぞれ35cmと46cm、53cm。真夏というのに、冬ごもりの準備でも始めようと言わんばかりに葉っぱが赤くなっています。(赤くなっているだけで葉っぱは落ちていない。)

この地は、10年ほど前にはカワウの営巣地であり、植林されていたほとんどのヒノキが枯死し、昨年まで立ち枯れとなっていた所です。あのカワウの営巣地であって、糞害にも負けずに耐え抜いたコナラの木、ドングリの木。

このコナラの枯れは、「ナラ枯れ」という病気で「カシノナガキクイムシが病原菌を伝播することにより起こる、樹木の伝染病」によるもので、「ナラ枯れ」の流行は5年程前には京都東山地域や湖北地方で騒がれていたが、とうとうこの地にも来たかというより、耐えられなかったかの気持ちいっぱいである。

確かに、無数の穴を空けられ(③の写真)、中身をえぐりだされた(②の写真)状態では、余りにも痛々しく、まして体内に病原菌を植え付けられていると思うと「かわいそう」。人間だったら逃げることが出来るだろうに。病院に行く事も出来るだろうに。

この地に数十年地に根を張り、琵琶湖の水源を守り、住みよい環境を作り続けていた「木」である。赤くなって、病気になって初めて「大きなコナラの木」があったと気づいた私たちである。

このコナラが、元気な「木」になるのか、「きになる木」である。

撮影場所：滋賀県近江八幡市
伊崎国有林

カメラ機種：FUJI FINE PIX 2500

タイトルも凄く面白いんですけど、今凄く問題になっているカシノナガキクイムシの害にやられたコナラですね。凄く状況ですね、穴が開いて、木屑がいっぱい出てますね。かなり痛々しいですね。そういう状況をドキュメンタリータッチで撮ってくれましたね。まず、コナラの全身が写っていて、幹の根元が写っていて、そして幹の細部の穴などが写ってる。なかなか組写真としてよく状況が分かる写真で良かったと思います。
(今森光彦氏)

◎ 近畿中国森林管理局長賞【森林・林業活動部門】



「大きくなあれ！ ～春のアカマツ植栽～」 NPO 法人日本森林ボランティア協会 (大阪府大阪市)

菅 智子
毛 穴 友 治
大 西 由 兼

<メッセージ>

金剛山の麓に位置する千早赤坂村は、古くから吉野林業の流を受け継ぐ林業地です。ここをフィールドとしている森林ボランティアたちが、皆伐（かいばつ）後の跡地に、1000本のアカマツの植栽を行いました。

老若男女が汗を流し、30度を越える急勾配の斜面に張り付きながら、1本1本の苗に「しっかり育てね」と願いを込めながら植えていきます。

気の遠くなるような作業。そんな中、一番元気だったのは、やはり女性でした。苗の束と支柱、そしてクワを持ち、縦横無尽に斜面を闊歩（かつぽ）する姿に、他の参加者たちも元気をもらいました。

森林を元気にしていく森林ボランティア活動であると共に、人々は森林からも元気をもらい、そして、仲間からも元気を分けてもらっています。

残念ながら、植えた苗が周囲の木と同じ大きさになる頃を私たちは見ることはできませんが、50年、100年と時間が流れて、健やかな森林に育つことを願っています。

アカマツよ、大きくなあれ！

撮影場所：大阪府千早赤坂村
金剛山麓 池ノ谷
花尾山造林地

木を植える植林の状況ですけど、その楽しさが伝わって来ますね。ワイドレンズで山の斜面の状況、みんなが植えている状況をまず捉えていて、そして個人の表情を捉えていますね、鎌を持って一生懸命頑張っている姿が写っています。次は植えた幼木ですね。アップも撮っていますね。なかなか組写真としてちゃんと説明してくれているいい作品だと思います。

(今森光彦氏)

カメラ機種：NICON COOLPIX 5600
画素数：500万画素

◎ 近畿中国森林管理局長賞【森林・林業活動部門】



「森が笑う日」

NPO 法人やまぼうし自然学校

(長野県上田市)

佐藤 明希

瑞慶 覧明子

北川 絵里

<メッセージ>

下草を刈り、森までの道を歩きやすくしたら、たくさんの子供たちが遊びに来てくれる森になりました。その昔、蒔炭林として活用された森の株立ちした木は、格好の秘密基地の土台。太いつるは、素敵な森のターザンロープ。落葉が降り積もるふわふわの土は、どんどん掘ってスリル満点の落とし穴。五感を研ぎ澄まし、体を思い切り使って、遊ぶ、遊ぶ、遊ぶ。おなががすいたら、お気に入りの場所でおにぎりをバクリ。森の中では、仲間同士の距離が自然と縮まっていきます。そして、子どもたちの笑い声が響く森は、まるで森自体が笑っているようなのです。

地球規模の環境問題を考えるのは、なんだか他人事のように難しいこともあります。自分がたっぷり遊んだ大好きな森がもしなくなってしまったら・・・と考えるのはそう難しいことではないでしょう。何より、こんなに楽しくておいしい森を、私たちだけで楽しんでいてはもったいない。一人でも多くの皆さんと森と一緒に遊びたいと思い、活動を続けています。たくさんのおともたち、昔子どもだった大人たち、森に遊びに来てください。たくさんワクワクとドキドキが待っています。

撮影場所：長野県上田市菅平高原

森の中で遊ぶ子ども達の楽しさがひしひしと伝わって来ます。ツルに掴まって上に登ってる子ども達ですね。みんなはしゃぎあって楽しそうに遊んでますね。それからブランコでターザンごっこみたいに、昔こんな事をしてよく遊びましたけれども、こういう森が少なくなりました。あとはお弁当かなんかをみんな並んで食べているんですね。後ろ姿が写りますけど美味しそうに食べてます。森ってこういうふうに楽しくみんなで関わるとホントに素敵だと思います。これも凄いいい作品です。

(今森光彦氏)

カメラ機種：CANON POWER SHOT A80

画素数：400万画素

◎ 近畿中国森林管理局長賞【一般部門】



「森から里へ」 滋賀県立大学里山いきもの愛好会 (兵庫県伊丹市)

吉川 剛明
中西 康介

<メッセージ>

私たちは、よく行く里山で目にすることが多いカエルに焦点をあてました。山にはアカガエルやタゴトガエル、モリアオガエルなど、カエルもいっぱいいますが、今回は最も目にすることが多いアマガエルを取り上げました。しかし、このようにカエルが多く見られる環境は減少しつつあるようです。私たちは、オタマジャクシとカエルという2つの形態で水辺と山林を行き来する生物「カエル」を通して、里山の美しさや大切さを知ってもらいたいと思います。

- ① 伐採された奥山のスギ植林地にカエルの写真です。切り株に座っているようで愛らしかったので撮りました。
- ② 里山の苔むした樹木を必死で登っている写真です。樹皮がもぞもぞ動いていたのですが、よく見たらカエルでした。
- ③ 田植えの終わった里地の田んぼの写真です。何をみつめているのでしょうか？

撮影場所：滋賀県高島市

3点ともカエルですね。カエルが好きなんですか。3枚の組写真ですけどそれぞれよく撮れてますね。考えて撮ってます。カエルの表情にですね、目のところにちゃんとピントを合わせて撮ってるものとか、幹にとまってカムフラージュですかね、凄く保護色になっている感じとか、あるいは田植えしたばかりの水田にアマガエルがいるところとか。それぞれに環境の事をよく考えて撮っている写真ですね。これも組写真としてなかなか目立った作品です。

(今森光彦氏)

カメラ機種：OLIMPAS μ 1030SW 画素数：1000万画素

第一次審査選定作品【学校部門】

「地域が支える学校ビオトープ」
 渋川ビオトープの会
 (滋賀県草津市)



CANON IXY DIGITAL 10

「命 育てる 学校林」
 大月市立鳥沢小学校
 H. A. Y. ft. 2
 (山梨県大月市)



NICON D40

「小さな隣人たち」
 広島県立庄原格致高等学校
 写真部 B
 (広島県庄原市)



CANON EOS KISS

「自然の中で生きる私」
 高知県立四万十高等学校
 [川上・秋田]
 (高知県高岡郡四万十町)



SONY CYBER-SHOT

「通学路」
 高知県立四万十高等学校
 [平野・東]
 (高知県高岡郡四万十町)



SONY CIBER-SHOT

「衣笠山の不思議」
 京都市立金閣小学校
 [加藤・石井・大久保]
 (京都府京都市)



CANON POWER SHOT A470

「しぜんがいっぱい」
 四万十市立津野川小学校
 (高知県四万十市)



CANON POWER SHOT

第一次審査選定作品【森林・林業活動部門】

「里山の仲間たち」
自然の学校
(兵庫県三田市)



NICON D300

「小さな命 (アモイトトシの場合)」
渋川ビオトープの会
(滋賀県草津市)



CANON IXY DIGITAL 820IS

「しおんじ山の会 & わんぱくらんどのコラボ」
しおんじ山の会
(大阪府箕面市)



OLIMPAS C-750 ウルトラズーム

「働いた後のカレーは最高っす！」
子供の森里山倶楽部
(滋賀県東近江市)



CASIO EXILIM

「森は楽しい・おいしい・おもしろい」
NPO 法人自然と緑
(大阪府堺市)



FUJI FINE PIX

「箕面・小型ヒメボタルの里」
箕面ホタルを守る会
(大阪府箕面市)



NICON D80

「森の宝物」
大杉谷自然学校
(三重県北牟婁郡紀北町)



日立 マクセル ロハリ ZD3

第一次審査選定作品【一般部門】

「森の出来事」
自然を守り隊
(大阪府箕面市)



CANON EOS 40D

「昆虫たちのきびしい世界」
めざせ昆虫博士！
(神奈川県秦野市)



RICOH GR DIGITAL

「近づいてみると…」
城跡めぐり同好会
(滋賀県愛知郡愛荘町)



SONY CIBER SHOT DSC-LI

「山で遊ぶ」
ホテル杉の湯
(奈良県吉野郡川上村)



CANON IXY

「森に学ぶ ～交流事業～」
熊本市立金峰山少年自然の家
(熊本県熊本市)



SONY DSC F828

「季節の扉」
トヨタの森
(愛知県豊田市)



CANON EOS 10D

「春の里山三景」
里山研究舎(夫婦)
(滋賀県大津市)



NICON D70S

最終審査会場 滋賀県立 琵琶湖博物館



琵琶湖博物館玄関



最終審査会場前の作品展示



記念撮影

最終審査終了後 作品展[平成 20 年 11 月 2 日~14 日]琵琶湖博物館特別展示室



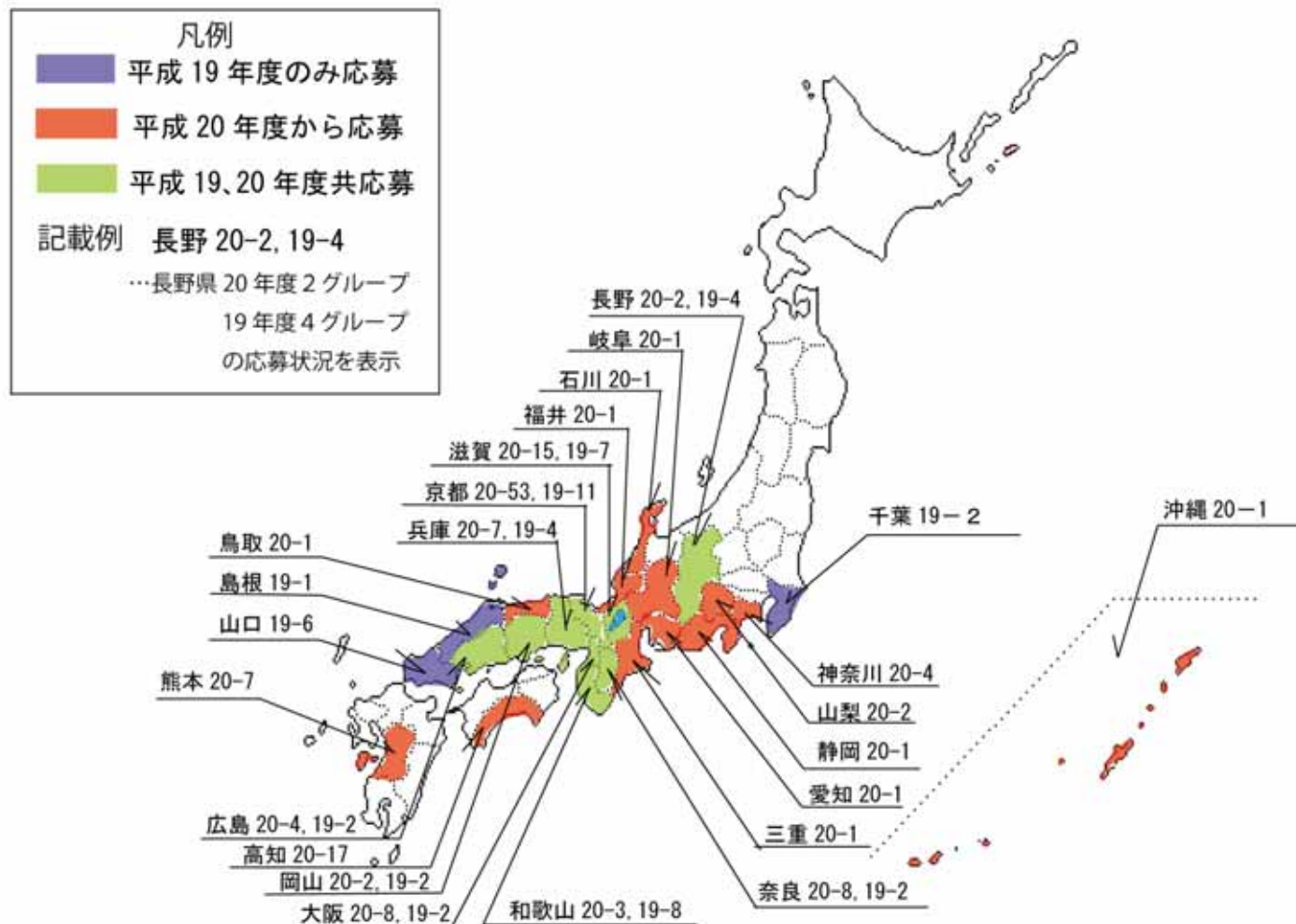
◎ 平成 20 年度グループ対抗里山デジカメ選手権府県別応募状況

募集期間：平成 20 年 6 月 19 日～平成 20 年 10 月 10 日

平成20年度府県別応募グループ名一覧表

府県名	グループ名	府県名	グループ名	府県名	グループ名
神奈川県	めざせ昆虫博士！	京都府	京都精華大学	兵庫県	兵庫県立山崎高等学校農業クラブ
	探検隊		京都大学エネルギー環境学研究室		兵庫県立山崎高等学校環境科学科職員
	想像力働き隊		深山ファミリー		滋賀県立大学里山いきもの愛好会
	すぐ集合！！出発隊		中西ファミリー		team:sekizawa
	立ち止まって見隊		森林ボランティアフォレスター宇治		(株)一成
石川県	石川県自然保護協会	京都府	京都森林インストラクター会	奈良県	自然の学校
福井県	夜叉ヶ池ボランティア	京都府	京都森林作業体験セミナー	奈良県	奈良県立吉野高等学校
山梨県	大月市立鳥沢小学校	大阪府	虫好きブラザーズ	奈良県	森と水の源流館
長野県	NPO法人やまぼうし自然学校	大阪府	自然を守り隊	奈良県	家族
岐阜県	那比の清流	大阪府	吾木香	奈良県	ホテル杉の湯
静岡県	かず&はる	大阪府	迷コンビ	奈良県	赤膚キッズ
愛知県	トヨタの森	大阪府	池田サラリーマンOBの会	奈良県	ほのほのジャーキー
三重県	大杉谷自然学校	大阪府	(株)森林コンサルタント	和賀山県	山の学校連ちゃんクラブ
滋賀県	高島市立高島小学校	大阪府	(株)緑化技研	和賀山県	好・奇・心
	近江八幡市立八万中学校教員	大阪府	とばふぁみりー	和賀山県	わんぱく隊
	西村忠司親子	大阪府	昆虫大好き岩堀くん	和賀山県	マゴマゴハバーン
	城跡めぐり同好会	大阪府	友達	鳥取県	大山樺手道上げナを育成する会
	滋賀県立大学	大阪府	小さな農家	岡山県	岡山県立勝間田高等学校
	龍谷大学	大阪府	森の道	岡山県	キンピール(株)岡山工場
	里山研究舎(夫婦)	大阪府	キッズプラザ大阪	広島県	広島県立原格致高等学校写真部
	渋川ピオトープの会	大阪府	加藤夫妻	広島県	ファミリー
	きぬがさ山の会	大阪府	ユータッチ	広島県	夫婦
	NPO法人ヒマラヤン・グリーン・クラブ	大阪府	しおんじ山の会	高知県	高知県立四万十高等学校
	ツリーカフェ・ツリーイングクラブ	大阪府	箕面里山工房	高知県	四万十市立津野川小学校
	子どもの森里山倶楽部	大阪府	NPO法人日本森林ボランティア協会	熊本県	熊本市立金峰山少年自然の家
	滋賀森林インストラクター会	大阪府	NPO法人自然と緑	熊本県	里山クラブどんごろす
	京都府立亀岡高等学校	京都府	きんきちゅうごく森林づくりの会	沖縄県	西表森林環境保全ふれあいセンター
	京都市立金閣小学校	京都府	箕面ホテルを守る会		
京都市立清水小学校	京都府	箕面の山パトロール隊			

林野庁長官賞、琵琶湖博物館長賞、近畿中国森林管理局長賞、第一次審査選定



応募票(コピーしてご使用下さい)

写真①

3枚1組の タイトル			
代 表 者 住 所	〒		
ふりがな 氏 名 年 齢	[1]グループ代表者	才	
	[2]	才	[3] 才
代 表 者 連 絡 先	TEL :	FAX :	
	Email :		
グループ名 (学校名)			
撮影場所 年 月 日	場 所 :	年月日 :	
写 真 デ ー タ	写真番号 : ①	カメラ機種 :	
	撮影画像数 :	プリンター機種 :	

写真②

3枚1組の タイトル			
グループ名 (学校名)			
撮影場所 年 月 日	場 所 :	年月日 :	
写 真 デ ー タ	写真番号 : ②	カメラ機種 :	
	撮影画像数 :	プリンター機種 :	

写真③

3枚1組の タイトル			
グループ名 (学校名)			
撮影場所 年 月 日	場 所 :	年月日 :	
写 真 デ ー タ	写真番号 : ③	カメラ機種 :	
	撮影画像数 :	プリンター機種 :	

平成21年(2009年)3月発行
 平成20年度「グループ対抗里山デジカメ選手権」
 編集・発行 箕面森林環境保全ふれあいセンター(林野庁 近畿中国森林管理局)
 〒602-8025
 京都市上京区西洞院通り下長者町下ル丁子風呂町 102
 京都農林水産総合庁舎内
 TEL : 075-414-9065
 FAX : 075-414-9029
 ホームページ <http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/fureai/>